

## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	芦野地区地方創生協議会	代表者	白井伸雄
事業名	芦野根古屋地区景観整備事業（武家屋敷）	事業費	933,000円
		交付金	930,000円

### （１）地域の現状と課題

芦野地区は城下町、宿場町でもあり、那須町で唯一江戸時代の面影が残る地であるが、現在高齢化が進み、特に根古屋地区には江戸時代芦野家家臣団の屋敷があったが、現在子孫は芦野を離れ、敷地や屋敷は放置され、荒れ果て往時の面影はない。

後継者不足によって、保全・継承も困難となり地域内外の交流も減少しているなか、交流人口の増加を図るためには、この地域を観光地・芦野を代表すべきエリアとして存続させ、これまでの名所旧跡に加え、新たな歴史と文化の空間を作る必要がある。

### （２）事業目的

根古屋地区芦野家家臣の屋敷跡は景観が偲ばれる数少ない空間であり、これらの空間を磨き上げ、集客効果の上昇や郷土愛の醸成を図ることを目的とする。更に、屋敷跡周辺の御殿山を中心として散策コースを魅力的な景観へと導くことで観光客の滞在時間を延伸し、地区内の商業活動への波及効果を図る。

### （３）事業概要

- ①屋敷跡地の整備と生垣の形成（門及び構えの復元を含む）
- ②景観に支障となる樹木等の除去と除草作業
- ③遊歩道の整備（新町～根古屋の敷石の設置、根古屋～上野町の除草等）  
楊源寺一建中寺間の遊歩道を石畳みにすることで、江戸情緒を醸し出す散策ルート設定（周辺の武家屋敷・生垣等との景観形成）
- ④既存ホームページ「もうひとつの那須 芦野」上で周知、PR実施



### ◆事業の成果や効果◆

根古屋地区の放置され荒れ果て往時の面影がなくなってしまった芦野家家臣の屋敷跡地と生垣の整備を行うことにより、江戸時代の城下町や宿場町の活気あふれる街並みを偲ぶ空間形成となり、地域住民の郷土愛の醸成が図られている。更には景観整備により交流人口の増加や商業活動への波及効果が期待できる。

# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	黒田原放送協会	代表者	山崎雅人
事業名	インターネットラジオ放送局「だっばラジオ」を活用した那須町の魅力発信事業	事業費	948,000円
		交付金	930,000円

(1) 地域の現状と課題

那須町には年間500万人もの観光客が訪れているが、那須町民の「生の声」を知ることが出来るインターネット上の情報インフラが整っていない状況であり、リアルタイムでの地元からの発信が少ないことに気づいた。また、インターネット上での地元向けの情報発信や地元住民が楽しめるコンテンツも少ない。これらのことから、観光客や町外者に対する多様な情報発信、地域の方に対するコンテンツ発信不足を解消するために活動を行う。

(2) 事業目的

- ・観光客や町外、県外の方への多様な情報発信を行い那須町の知名度向上と魅力発信、地域のファンを獲得する。
- ・地域間の垣根を超えるインターネットをツールとし、幅広い年代の地域住民がパーソナリティを務めることにより生まれる独自の目線や感性、情報を定期的に発信することで地元愛の醸成とにぎわいの創出を図る。

(3) 事業概要

- ①ラジオ番組告知宣伝  
番組内でのチャンネル登録誘導、別番組の視聴誘導を実施し、視聴回数が平均20%向上
- ②ラジオ番組の強化  
放送機材を全面強化、放送画質、音質、配信の安定性など機材の充実による質の向上
- ③地域との連携強化
  - ・ラジオ放送局オリジナル商品を考案し地元イベントでの販売、ラジオ番組PR実施
  - ・地域住民との交流会を実施し、ラジオ放送体験などを行いラジオの役割を周知
  - ・視聴者との交流会を開催し、交流人口の増加に寄与した。



◆事業の成果や効果◆

だっばラジオは電波法に規定する免許を要しない微弱電波を使用した放送であり、黒田原駅前通り周辺で視聴可能であり、毎日パーソナリティ日替わりで放送を実施している。ラジオ電波受信以外では、インターネットを用いた動画共有サービスYouTubeでのラジオ動画配信を実施することにより、ラジオで紹介した場所やお店などに県内外からファンが訪れており、交流人口の増加に期待ができる。



## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	森林ノ牧場株式会社	代表者	山川将弘
事業名	環境教育推進事業	事業費	705,483円
		交付金	624,983円

### (1) 地域の現状と課題

森林ノ牧場のある夕狩地域には豊かな自然があり、環境教育に適した地域であるが自然の価値や魅力を伝える機会や人材が充分ではない。この地域の価値を掘り起こすためには、地域の自然の中に入り込み、継続的な調査や観察を行うための地域の環境に精通した人材が必要である。自然について学ぶ場を提供し、環境教育を実践できる人材育成が必要である。

### (2) 事業目的

- ・自然の価値や魅力を伝える人材を育成し、地域の魅力を掘り起し郷土愛の醸成を図る。
- ・当たり前にある自然や文化を学びの場として提供することで、気づかなかった地域の価値を地域が主体となり掘り起こす。
- ・夕狩地区の自然を解説し、理解を深めることで集客に繋がり交流人口増加を図る。
- ・恵まれた自然を活用し環境教育の推進を図る。

### (3) 事業概要

地域内の子どもから大人までを対象に事業を開催した。

- ①生態系の観察会（開催時期：夏、秋）  
生態系の専門家を招いて地域周辺の生物や自然について観察し調査を実施
- ②ビオトープづくり（開催時期：5月～）  
水生生物を招くために牧場内にビオトープを作り、周辺の生態系変化を観察した。
- ③夏の生き物観察会（開催時期：8月）
- ④インタープリター入門講座（開催時期：10月）
- ⑤鳥の観察会と巣箱づくりワークショップ（開催時期：2月）



### ◆事業の成果や効果◆

夕狩地区の豊かな自然を用いての事業開催により、地域の魅力の掘り起こしと地域の価値の高さを理解することができ郷土愛の醸成に繋がっている。

夕狩地区子ども育成会や学びの森小学校との連携も図られつつあり、幼少期における環境教育により当たり前とされている自然や文化について学ぶことで、環境教育を実践できる人材育成にも期待ができる。

## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【新規事業】

団体名	那須高原クロスロード振興会	代表者	北牧修平
事業名	高齢者の生きがいつくりとお出かけ支援事業	事業費	930,638円
		交付金	880,938円

### (1) 地域の現状と課題

那須町北部エリアは、高齢化、過疎化が進み、高齢者の健康維持及び地域コミュニティの希薄化が課題になっている。高齢者の健康維持には、「お出かけ」が重要であり、高齢者の生きがいつくりにも大きく寄与する。しかし、「お出かけ」したくてもできない人がいる現状もあり、健康増進及び生きがいつくりという高齢者のニーズに適合した「お出かけ」支援が必要である。

### (2) 事業目的

高齢者のお出かけ支援のニーズ調査の上、そのニーズを満たすために住民が主体となった助け合いによるお出かけ支援事業を展開し、高齢者の健康増進と生きがいつくりを醸成する。  
また、事業を通じて世代間の交流を図り、地域住民の郷土愛を醸成する。

### (3) 事業概要

- ①お出かけ支援に関する学習会の開催（3回）  
講師：かながわ福祉移動サービスネットワーク
- ②お出かけ支援ニーズ調査の実施（6月～3月に17日間にわたり調査）
- ③お出かけ支援アンケート調査（9月実施）
- ④お出かけ試験運行（7月～12月実施）
  - ・住民相互扶助による送迎の実施に向け支援団体の発足
  - ・お出かけに寄与するルートや運行時間を設定した定時運行については、試験運行まで実施した。



### ◆事業の成果や効果◆

町北部エリアにおいて高齢者のお出かけ支援の必要性について地域住民アンケートを実施してニーズ把握を行い、地域住民が主体となった助け合いによる生きがいつくりの仕組みづくりに向け活動しており、地域住民が運転免許証の返納後も安心して生活できる環境づくりに期待できる。

# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	黒田原活性化プロジェクト	代表者	渡邊陽裕
事業名	「クロロとゆめな」を活用した黒田原地域活性化事業	事業費	475,000円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

黒田原地域は人通りの少ないシャッター商店街となっている。年に数回、祭り等の催事を開催し、ポイントでの集客はできているものの、継続したにぎわいの創出には至っていない。そこにはアクセスの悪さ、観光資源の少なさなど多くの要因があるが「知られていない」ことが最たる理由である。にぎわいを創出するために、地域知名度の向上・魅力発信が課題である。

## (2) 事業目的

- ・黒田原を中心に、那須町の知名度向上、魅力発信、ファンの獲得を図る。
- ・黒田原商店街に人を呼び込み、にぎわいの創出、活性化を図る。

## (3) 事業概要

- ①2017年度制作のラッピングカー及び告知物による魅力発信事業  
町内外や海外でのイベントに出演しキャラクター及び町の魅力を発信した。(通年)
- ②「クロロとゆめな」のポスター・チラシ等によるPR事業  
町内及び周辺地域をはじめ、キャラクター遠征先等での配布・掲示等を行い、地域のPR及びファンづくりを実施した。
- ③LINEスタンプ制作によるPR・集客事業  
SNSで拡散することにより、PRの相乗効果が期待でき交流人口増加を図った。



**クロロとゆめな 実写スタンプ ver.1**

黒田原活性化プロジェクト(栃木県那須郡)

待望のクロロとゆめな実写スタンプが完成！栃木県那須郡黒田原のマスコットキャラクタークロロとゆめなのスタンプです。黒田原活性化プロジェクト製作。

¥120

プレゼントする 購入する

スタンプをクリックするとプレビューが表示されます。



## ◆事業の成果や効果◆

マスコットキャラクター「クロロとゆめな」を活用することにより、コミュニケーションの障壁が下がり、歴史への関心の有無に関わらず子どもからシニアまでの幅広い年齢層へ地域の史実と魅力を伝えることができています。キャラクターの知名度も向上しておりファン増加に伴う交流人口の増加にも期待ができる。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	大島地区地域づくり委員会	代表者	平山幸昭
事業名	大島ふれあい田んぼアートづくり事業	事業費	364,753円
		交付金	364,753円

## (1) 地域の現状と課題

大島地区では、地域住民が集う憩いの場として、河川公園の整備や余笹川流域の環境保全等、地域内の整備に取り組んできたが、地域外との交流はなかった。そこで、河川公園等の維持管理や利活用のため、こどもからお年寄りまで世代を越えた地域住民が主体となる大島ふれあい祭りを開催し、地域住民の一体感を培ってきている。しかし、依然として住民の地域外への流出が続いており、今後どのようにして郷土愛を醸成するかが課題となっている。

## (2) 事業目的

町民主体のイベントである「大島ふれあい祭り」に併せて、田んぼアートを作り、まつりをさらに盛り上げ、町民の地域に対する愛着と一体感の更なる醸成を図る。更には町内外からの参加者・見学者が増加することで住民の自信につなげ、住民の町外流出を抑制する。  
また、地域資源を活用するため、田んぼアートは休耕田を使用する。

## (3) 事業概要

### ①田んぼアートづくり

- ・苗作り、圃場整備、田植え、除草管理（4月～8月実施）
- ・環境整備（圃場周りの草刈り、観覧席の保守）
- ・田んぼアート公開（9/1～10/31）

大島ふれあい祭りの開催時期と合わせたため、多くの方に見てもらうことができた。  
・稲が病気となり出来は良くなかったが、多くの地域の方に協力を得られることができた、地域づくり委員会メンバーも増え地域振興が図られた。

### ②マスコットキャラクター「しまたん」が各イベントに参加し、地域の魅力をPRした。



H29事業の様子

## ◆事業の成果や効果◆

田んぼアートづくりを行うことにより、地域住民の地域に対する愛着と一体感の醸成が図られている。また、地域住民によるマスコットキャラクター「しまたん」が地域内をはじめ県内外の様々なイベントに参加することにより、元気な大島地区をアピールすることができており交流人口の増加に期待ができる。

# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	那須町文化活動委員会	代表者	牛渡 洋
事業名	那須町工芸作家による地域づくり事業	事業費	453,364円
		交付金	163,841円

## (1) 地域の現状と課題

那須町には多くの有能な芸術家、工芸家が多く居住しているが、県内外の人々がその作品や芸術体験に触れる場の整備がなされておらず、那須の自然の中で芸術体験をしたいと考えている人への情報発信も不足している状況にある。そのため、体験型観光客の新規掘り起しができていないことが課題である。

## (2) 事業目的

宿泊施設やレジャー施設、飲食店等で組織されている那須教育旅行誘致協議会や農協、観光協会、商工会などと連携し、絵画、工芸、書道、華道などの体験教室、芸術祭、収穫祭などを開催するとともに、那須町に訪訪することでしかできない芸術体験を積極的に情報発信する。また、那須に居住する素晴らしい芸術家、工芸家を効果的に活用して県内外から体験型観光客を集客し、文化交流人口を増加させると同時に地域経済の活性化を図ることを目的とする。

## (3) 事業概要

- ①体験教室の開催（延べ113名参加）  
那須に訪訪することでしかできない芸術体験を提供した。
- ②芸術祭の開催（延べ350名）  
那須地区の芸術家、工芸家の作品を展示し文化交流人口の増加を図った。
- ③情報の発信（那須に訪訪することでしかできない芸術体験の情報を積極的に発信）
- ④関係団体との連携  
体験型観光客を滞在型観光客へつなげるため、那須野農協、那須町観光協会等と連携



## ◆事業の成果や効果◆

那須の自然の中で体験することができる芸術体験について、体験ロードマップを作成しPR活動を実施するとともに体験教室や芸術祭を開催し、文化交流人口の増加を図っている。また、体験型観光客を滞在型観光客に繋げるためにJAなすのや那須町観光協会、那須町商工会などと連携し地域経済の活性化に期待できる。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	だっばら駅前マルシェ	代表者	渡辺陽一
事業名	だっばら駅前マルシェ	事業費	545,000円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

かつての黒田原駅前地区は、町の中心地として賑わっていたが、現在の駅前通りには営業している店舗がほとんどなく、シャッター通りとなって永い年月が経過してきた。また、農業を筆頭に観光商工業も衰退の一途を進み、担い手の減少や高齢化が進んでいる。  
農商工連携が遅れていることや情報発信が貧弱なことが課題である。

## (2) 事業目的

埋もれている農畜産物やその加工飲食物、生産者の顔や経営指針をマルシェで披露することで、売上の向上と後継者増加を図る。また、農業や商工業者の交流と連携で新たな価値を創造し、地域担い手の人材育成を行う。さらに、東北線の駅前を活かしてDCと連動させ、観光振興を図る。

## (3) 事業概要

### 「だっばら駅前マルシェ」の開催

開催日：5月～9月の月末金曜日夕方から開催した。（7月は夏まつりのため開催なし）

来場者数は、天候にも左右されるが、延べ1,150名の方にお越しいただけた。

場 所：黒田原駅前のカフェ、空き地

出店者：農畜産物生産者、飲食店、食器などの食関連の商工業者など延べ80店舗の出店協力が得られた。

那須町の経済活性化のため、マルシェを足掛かりに黒田原地区に興味を持ってもらい、県外及び国外から多くの方に那須町のPRをすることができた。



### ◆事業の成果や効果◆

シャッター通りとして人通りが寂しい黒田原駅前を活性化させるため、空き店舗を活用した店舗を中心に農家や商工業者の出店交流や営業販促の機会を提供している。マルシェを通して黒田原地区がお洒落な若者やお洒落なものを求める人たち、お洒落なアート作品などの交流の場となり、新たな交流人口の増加に期待できる。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	黒田原夏まつり実行委員会	代表者	大島寛樹
事業名	黒田原夏まつり	事業費	961,791円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

黒田原地区は那須町役場、JR黒田原駅がある那須町の中心部である。特に駅前は、かつて商店が立ち並び多くの人が行き交う賑やかな場所であったが、現在は地方経済の衰退、少子高齢化による人口減少、若者の流出や後継者不足等により商店街、事業所の衰退を招いている。いかに一人ひとりが黒田原に誇りと愛着をもつことができるか、若者に伝統を継承していけるかが今後の課題である。高校生などの若い人たちに当日の祭り参加だけでなく、計画段階から取り組んでもらうことで、より地域への興味を持たせる必要がある。

## (2) 事業目的

- ・古き良きお祭りを再現することで、黒田原地区住民のコミュニティを図ること。
- ・祭を開催することで黒田原の活性化を図ること。
- ・同時開催される八雲神社のお神輿と連携することで、伝統文化を体現し黒田原地区の魅力を掘り起こすこと。
- ・若い人に参加を促し伝統文化の継承と若者の定住化促進に繋げること。

## (3) 事業概要

### 黒田原夏まつりの開催

開催日：7/28 入込数2,000人

- ・黒田原駅前通りに提灯などの飾りつけをして華やいだ雰囲気での町の活性化の象徴につなげることができた。
- ・那須高校生などの地域住民による出店や路上ライブ、チアダンス等のイベント実施。
- ・同時開催の八雲神社のお神輿に那須高校生など若者の参加を促進し定住化を図った。
- ・夏祭りの魅力を発信しチラシ等を通じて活性化の活動を地域に普及できた。
- ・地域コミュニティの活性化のために定期的に推進協議会を開催した。



## ◆事業の成果や効果◆

古き良き黒田原の祭りを再現することにより、地域コミュニティが活性化され、黒田原地区の活性化について定期的に検討する新たな組織が形成され、活発な活動がされている。更には、那須高校生をはじめ、若者の参加を促すことにより、黒田原地区の伝統文化の継承と郷土愛の醸成を図る機会となっている。

# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	黒田原地区地域づくり委員会	代表者	本澤栄春
事業名	黒田原地区歴史文化啓蒙事業	事業費	465,000円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

黒田原地区は、黒田原駅の開業と山田農場の開墾事業と共に発展してきた史実により、文化財や名所が数多く点在し、委員会では案内看板設置や、郷土史に関する学習会を実施してきた。この活動により地域を案内するボランティアが育ち、郷土の歴史・文化を内外に広めることができている。しかし、長い歴史の理解は一朝一夕には難しく、郷土の歴史や文化の共通理解、地域魅力の再認識には至っていない。今後は、さらに郷土を知り、見つめ直すことで郷土への誇りを持ち、郷土愛を育てていくことが課題となる。

## (2) 事業目的

黒田原駅開業後125年の時を経て街並みを営々として築いてきた先人の苦労や心意気、生き様を、当時の写真展示により知ってもらい、郷土愛を呼び起こすと共に郷土愛を醸成する。黒田原駅開業前から人々の暮らし（営み）が続いていた歴史の数々を探り、映像作品上映会を開催して地域民の多数参加を促し、賑わいの再生及び地域理解の深化を図る。また、小中学校との連携を密にし、上映会の開催を通じて啓発活動を実施し、郷土愛の醸成を図る。

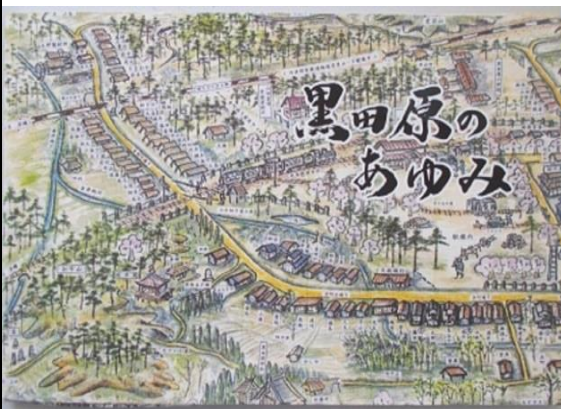
## (3) 事業概要

### ●DVD映画の作成

クロロとゆめな THE MOVIE2 ～黒田原と秘密の物語～

映画作成依頼者とシナリオ表現等の修正及び検討について数か月にわたり協議を行い「黒田原の歴史を知らない、これからの黒田原を担っていくであろう子どもたちや若い人たちが少しでも地元に興味、関心を持つきっかけづくりと地域愛の醸成に少しでも寄与する」という強い信念の元、撮影を行い完成させた。地域の拠点となる施設において試写会を実施した後、地区内の保育園、小中高等学校、町の図書館などに寄贈し、駅開業以前からの黒田原地区の歴史文化の啓蒙活動への利活用に働きかけた。

●黒田原地区開拓の祖 山田家の祖礼祭に参加し、地域との交流を積極的に行った。



H29作成写真集

## ◆事業の成果や効果◆

黒田原地区の詳細な史実について、資料の収集や分析などを実施し、DVD映画を作成した。完成したDVDは、地域内の小中学校などへ寄贈し郷土愛の醸成の機会を図った。

作成したDVDにより、黒田原地域への興味関心が高まり、地域を案内する案内ボランティアの活動の機会と交流人口の増加にも期待できる。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	池田地区地域づくり委員会	代表者	井上光成
事業名	池田地区ひまわりプロジェクト	事業費	192,838円
		交付金	192,838円

(1) 地域の現状と課題  
 広谷地から池田の交差点の間に位置する「池田地区」はホテルもあり近年、観光客も増加している。地域づくり委員会としても、景観の魅力アップに努め「那須ヒオウギアヤメ」の保護、「お富士山」の整備等を行ってきた。  
 「那須ヒオウギアヤメ」の植栽場所付近は、シーズンには写真撮影者が増加しているため、休耕田に「ひまわり」を植栽し、付近一帯の景観を維持し魅力ある観光資源としてPRしていく必要がある。

(2) 事業目的  
 ① 園地を借り受けて「ひまわりの植栽」を行い、春の「アヤメ」夏の「ひまわり」と連続した鑑賞可能な景観を作り観光資源とする。  
 ② 地域の子供育成会、中学校、住民との共同作業を実施することで地域の交流を深める。  
 ③ ひまわりの種まきから搾油に至る一連の作業を通じ、地域としての社会貢献出来るという自覚の醸成を図る。

(3) 事業概要  
 ひまわりの植栽  
 場所：一ツ縦地内の休耕田  
 規模：20アール  
 園地の整地⇒除草剤散布⇒施肥⇒耕作⇒種子の手播き⇒除草⇒開花（花の鑑賞）⇒種子採取⇒種子発送  
 ◎種子の発送先：NPO法人シャローム（福島県）で実施している「ひまわりプロジェクト」  
 「ひまわりプロジェクト」とは、各地から届いたひまわりの種を製品化し、広く障がい者支援に役立てる活動。



◆事業の成果や効果◆  
 池田地区にはホテルや美術館が点在しており多くの観光客が行き交う地区であるが、別荘地を含む地域住民が一つとなり、観光地であることに誇りを持ち、自ら景観の魅力向上に努めている。この付近の水田用水路から採取された標本を基に昭和天皇がご研究され、昭和38年に命名された「ナスヒオウギアヤメ」の保護と植栽地の維持管理、付近一帯の景観維持を行うとともに障がい者福祉活動にも寄与している。

## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	高久地区地域づくり委員会	代表者	相馬和至
事業名	高久地区歴史めぐりと自然散策事業	事業費	430,343円
		交付金	430,343円

### (1) 地域の現状と課題

高久地区には多くの史跡があり、里山・田畑などの自然も豊かな地区である。しかし、近年少子高齢化が進み、地域の各種イベントなどへの参加者も減少傾向にある。そのため、安全・安心な地域づくりは不可欠であり、希薄になりつつある地域住民間の交流・コミュニケーションの醸成が課題となっている。

### (2) 事業目的

地域内の史跡と里山・田畑を活用した歴史めぐりと自然散策順路を整備し、散策会を実施する。地域の歴史や草花・野鳥などについて講師の指導による歴史めぐり、自然散策会に参加させることで、地域への誇りと郷土愛の醸成を図る。また、休耕田を活用したもち米の栽培を地域住民と学童で行い触れ合う機会をつくることにより、希薄になりつつある地域住民の関係を改善する。更には、子どもから大人まで住民間の交流・コミュニケーションを活発化することで、地域全体の安全・安心の質の向上を図り、住み良い地域づくりに貢献する。

### (3) 事業概要

#### ① 散策順路の整備（延べ70名参加）

施設案内看板の準備、草花等の植栽、イベント参加者の安全確保を目的とする散策順路の整備作業を実施した。（6回）

#### ② 歴史めぐりと自然散策、生き物観察会の実施（延べ43名参加）

地区の歴史や草花・野鳥・水辺の生き物などについて事業に参加することで、地域住民間の交流・コミュニケーションを図り、さらに地域を知ることによって郷土愛の醸成を図った。

#### ③ 休耕田の活用（もち米、古代米の栽培、餅つき大会へのもち米の提供）

（延べ179名の参加、もち米90Kg、古代米25Kgを提供）

学校や育成会と連携した田植え、稲刈り、餅つき大会などの共同作業を通して、地域住民間の交流・コミュニケーションを図り、住み良い地域づくりに貢献した。



### ◆事業の成果や効果◆

地域内の史跡と里山・田畑を活用した歴史めぐりと自然散策ができる順路整備を行い、歴史めぐりや自然散策会を開催することで、地域への誇りと郷土愛の醸成が図られている。また、休耕田を活用したもち米の栽培を地域住民と学校、育成会が連携して行うことにより、子どもから大人までの住民間の交流がなされ、住み良い地域づくりに期待できる。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成29年度～2年目】

団体名	那須高原作家協会	代表者	瀧 昭典
事業名	那須高原芸術祭	事業費	559,134円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

高原エリアに芸術展示会場や音楽ホールが無いことにより、魅力的なアーティストの芸術発信の機会が十分に確保されていない。また、イベントを実施する際の二次交通が脆弱なことに加え、情報の発信方法も一方的になっているため、必要な情報が必要な方へ届いておらず、地元客や観光客を効果的に誘導できていない。

さらに、町民が自由に発案するようなボトムアップイベントが発達していないため、学生や若手デザイナー、若手アーティストが活躍できる機会が少ない。事業実施により若手デザイナーや若手アーティストの活躍の場を増やし、那須町の新規ファンを獲得し、リピーター獲得へ向けた必要な情報を提供できる環境を整備して新たな人の流れを起こし、地域経済の活性化を図ることが課題である。

## (2) 事業目的

効果的な情報発信や二次交通の強化による夜間イベントへの誘導や若年層観光客など新規分野での顧客獲得に加え、観光客を迎え入れるおもてなし人材の育成をすることにより、那須町に人を呼び込み地域経済の活性化を図ることを目的とする。

## (3) 事業概要

那須高原芸術祭の開催 6/1～6/30（延べ300名の参加）

- ① 那須町在住アーティストによる展示会の実施
- ② 他団体による展示会とのコラボレーション
- ③ ワークショップの開催



## ◆事業の成果や効果◆

芸術祭の開催により那須町在住アーティストの活躍の機会づくりとなり、他団体との連携や地域住民、観光客との交流に繋がっている。

地域の現状と課題、事業目的に沿って地域の課題解決に向け、地域住民を巻き込んだ取組みに期待したい。

# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	あかりキッチン	代表者	川崎ノブ子
事業名	あかりキッチン	事業費	1,016,110円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

急速な高齢化が進み、ひとり暮らしの高齢者や日中をひとりで過ごす高齢者が増えてきている。寝たきりや認知症を予防し健康寿命を延ばすためにも、高齢者が他者と交流できる場が必要であるが、そのような場が少ない。さらに、高齢者は硬いものなどの食べにくい物を避け、栄養が偏る傾向がある。食事作りが不自由であったり外出困難な高齢者も増えている。健康の基本である食を通して、他者との交流の場を広げ、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるようにすることが課題となっている。

また、大島地区の子どもが通う小学校近くに、放課後児童クラブをH28年中に建設した。夏休み等の長期休みも子どもの受け入れを行うが、学校給食が休みになるため、毎日の昼食作りは働く保護者には大きな負担になる。安心して快適な子育て環境を提供するためにも保護者の負担を軽減することが必要である。

## (2) 事業目的

高齢者の寝たきりや認知症予防のため、他者と交流、調理、食事を通して健康状態、栄養状態の把握や日常生活の変化などを感知する。また、食事作りが不自由又は外出が困難な高齢者に見守りを兼ねてお弁当宅配を行うことにより、高齢になっても安心して住み続けられる地域を目指す。更には食を通じた交流会、見守り宅配を高齢者が行うことで自らの介護予防に繋げる。小学校や放課後児童クラブと連携し、夏休み中の昼食づくりをすることで、働く保護者の負担を軽減し、安心して快適な子育て環境を提供することにより大島地区の定住促進にも寄与する。

## (3) 事業概要

- ① 「食事交流会」の実施（穂積公民館）（毎月30日に実施し延べ420名参加）
- ② 「見守りを兼ねたお弁当宅配」の実施（毎週火曜日に実施 宅配弁当は延べ1,180食）
- ③ 「放課後児童クラブの昼食づくり」の実施（毎週水曜日に実施 延べ弁当数92食）



## ◆事業の成果や効果◆

地域の課題解決に向け模範となる事業である。

食事交流会は地域住民による「あかりキッチン」スタッフが様々な料理を作りバイキング形式で実施されており、参加者は美味しい料理と楽しい会話に加え、カラオケを楽しむこともでき参加者も増加傾向である。スタッフも参加者も地域住民であることから会話や様子から体調や栄養状態、日常生活の変化を感知することが容易である。見守り弁当も食事作りが困難な高齢者が心待ちにしており、地域に無くてはならない取り組みである。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	那須・地ビール祭り2018実行委員会	代表者	小山田孝司
事業名	那須・地ビール祭り2018	事業費	2,438,376円
		交付金	465,000円

## (1) 地域の現状と課題

那須町の基幹産業は観光業（宿泊・テーマパーク等）であるが、東日本大震災以降、観光客数は減少し、未だ震災前の数値に観光客数が回復していない。特に宿泊人数の伸びが弱い状況にある。この状況をうけ、宿泊客の増加を図り、那須地域を周遊させる仕組みを作ることにより、観光業の底上げをし、地域経済を活性化させていくことが必要となっている。

## (2) 事業目的

関東近県の観光客をターゲットとしてテーマパークを観光して帰る那須の周遊コースを作り、観光産業の増売、活性化（宿泊・テーマパーク）を図る。また、那須町と共同開催し、地元食材（那須和牛）のPRを図る。更に外国語に対応したホームページでの情報発信、旅行会社への売り込みを行い、訪日外国人旅行者（イバウト）の誘致を図る。

## (3) 事業概要

- ①那須・地ビール祭り2018の開催（9月1日（土）、2日（日））  
 ※2日は那須地区文化協会と連携し「那須地区郷土芸能フェスティバル」を開催した。  
 場所：余笹川ふれあい公園 入込数：7,500人（目標8,000人と比較△500人）  
 出店数：全国の地ビール醸造会社17社、飲食店18社が出店した。  
 JR黒田原駅、JR黒磯駅からイベント会場までを送迎する無料バスを運行した。
- ②情報の発信  
 新聞折込：22,850部（那須町・那須塩原市・大田原・白河市）  
 一般配布：2,150部、ポスターB2全判120部配布  
 ホームページを作成し、SNS、ラジオ、新聞などにより事前告知を実施した。
- ③関連団体との連携  
 宿泊施設や旅行会社との連携を図ったが、宿泊施設の繁忙期と重なり説明する機会が確保できず事前宿泊予約確保が困難だったことから集客に結び付かなかった。



## ◆事業の成果や効果◆

那須・地ビール祭りも定着しつつあり、多くのお客様にお越しいただいている。  
 那須地区文化協会との連携により、大田原市、那須塩原市、那須町の子どもたちを含む郷土芸能保存団体のステージ披露もあり、子どもから大人までが楽しむことができた。  
 宿泊施設や旅行会社との連携にも力を入れており、継続した取組みに期待ができる。

## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	傾聴と在宅支援のボランティア・のぼらん	代表者	竹原典子
事業名	「傾聴と在宅支援」による地域支え合い事業	事業費	616,083円
		交付金	465,000円

### (1) 地域の現状と課題

那須町の高齢化率は、全国よりも20年早く高齢化が進み、それに伴う介護需要が急増している。特に、在宅介護を必要とする高齢者が増え、介護する家族等の負担感は大変厳しいものとなっている。介護をする側は介護の悩みを共有できる人がいない、あるいは家族の理解がないことで不安が募る。一方、介護を受ける側は、認知症で意思疎通がうまくできないなど、双方が心身ともに疲れ果てている状況となっており、地域福祉を支える基盤が揺らいでいる。そのため、地域の支え合いや交流の機能を維持し、住み慣れた地域でできる限り自分らしく暮らし続けられるように、いかにして地域コミュニティを支える人材を支援していくかが課題となっている。

### (2) 事業目的

在宅介護をしている方などが、「傾聴」に関する技術を学ぶことで、他者への理解や介護の現場で活用してもらう。介護する方同士の悩みなどを共有する交流会を開催することにより、地域とのつながりを促進し、介護者の負担感を和らげる。

地域を支える人材を支援・育成することで、地域を支え合う仕組みをつくる。

### (3) 事業概要

#### ① 傾聴養成研修会の開催（基礎からスキルアップまで）

講師：NPO法人ホールファミリーケア協会（東京）山田豊吉氏 全4回 23名参加

#### ② 講演会開催

演題：「老いとともに迎える人生の仕舞い方」講師 石飛幸三氏（医師）

6/28日開催 138名参加

#### ③ ケアー（介護）する人たちのためのケアラズカフェ開催

家族を介護する人同士が日頃の精神的緊張や疲れを互いに話し合い寛げる場となるよう傾聴的に支えた。



(H29事業の様子)

### ◆事業の成果や効果◆

町の高齢化に伴い、傾聴と在宅支援を支えるボランティアの育成を実施するとともに、介護者の緊張や疲れを癒せるような環境を作り、介護者を傾聴的に支えた。この活動を継続的にを行い、地域住民が支え合い在宅介護の仕組みづくりとなることを期待する。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	つながるひろがるアート展Nasu実行委員会	代表者	伊藤七男
事業名	障がい者アートを活用した地域づくり	事業費	1,359,451円
		交付金	464,970円

## (1) 地域の現状と課題

那須地域は障がい者アートに触れる機会がなく、障がい者の芸術的な才能を知る機会がない。また、那須地域の福祉施設等でも絵を描く機会が少ない。幼いころから障がい者アートに触れる機会をつくり、多様な価値観や豊かな人間性を育む必要がある。いかにして障がいの有無に関わらず人と人とがつながり、それを広げていくか、またアート活動を通して障がい者が積極的に社会に参加、貢献できるようにしていくかが課題である。

## (2) 事業目的

アート展、ワークショップ、カレンダーを通じて、那須地域の人のみならず那須を訪れる観光客も障がい者への理解を深めるきっかけをつくとともに、障がい者自身の優れた才能を発掘し、積極的に社会に参加、貢献できる地域をつくる。

障がいの有無に関わらず、人と人とがつながり、それを広げていく地域づくりを目指すことで誰もが住みやすいまちを作る。

障がい者アートが魅力的な地域資源であることを認識してもらうことで、積極的な活用を図り、新たな人の流れをつくる。

## (3) 事業概要

### ①第10回つながるひろがるアート展Nasu開催（11月3日～25日実施）

那須地域14展示会場（ホテル等）において展示を行った。

### ②ホームページ（つながるひろがるアート展）の作成（11月）

- ・つながるひろがるアート展を知らない全国の方々に興味を持ってもらうことができた。
- ・制作会社に委託したことでURLにも信頼性があり、デザインが一新して若年層にも好評を得た。
- ・フェイスブックやYouTube動画も表示させることにより最新の情報も閲覧可能とした。

### ③カレンダーの制作・販売

- ・3年間継続して制作販売の成果として、地域住民に障がい者アートを認識してもらうことができた。
- ・企業の社名入りカレンダー制作など新たな取組みも行き購入してもらうこともできた。
- ・全国の福祉施設等に配布することで、つながるひろがるアート展を知ってもらう機会となった。
- ・次年度以降の、つながるひろがるアート展の運営資金を確保することができた。

### ⑤展示会と展示協力（年間を通し、アーカーチャー展など9展示会への展示協力を行った。）



## ◆事業の成果や効果◆

町内のホテル等施設と連携し、障がい者アートを鑑賞できる機会を提供することにより、地域住民や観光客に芸術作品に身近に触れ障がい者への理解を深める機会となった。

カレンダー制作販売により、ファンも増加しており、障がい者アートを身近なものにしている。今後も継続した取組みに期待する。

## 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	芦野地区地域づくり委員会	代表者	菊池 健
事業名	ホタルの里づくり事業	事業費	79,688円
		交付金	79,688円

### (1) 地域の現状と課題

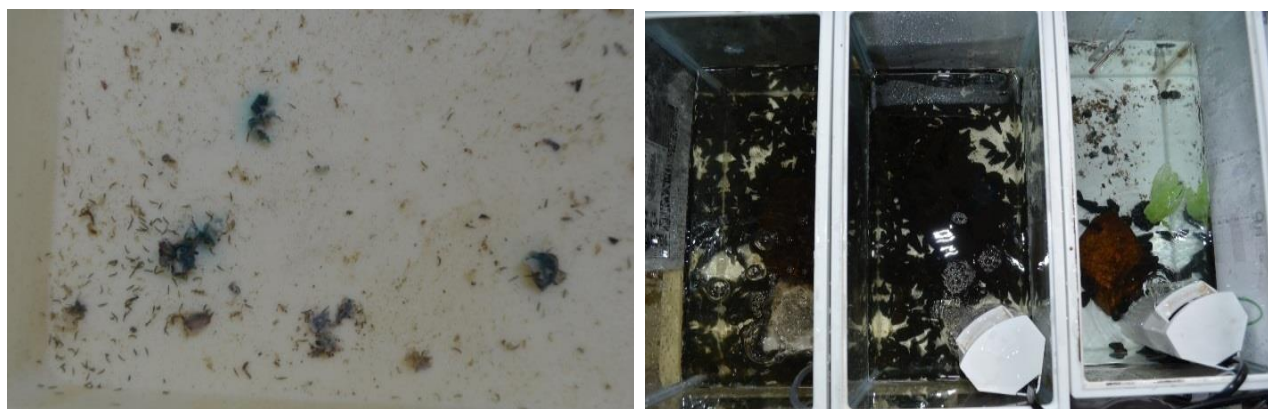
那須町は、自然豊かなりリゾート地として人気があり、移住希望者も少なくはないが、芦野地区は那須の人気エリアから離れており、若者の流出、高齢化が進み、将来的な地区機能の低下が懸念されている。芦野地区は豊かな自然を有しホタルが生息する環境であるが、住民は当たり前のこととし特別な魅力であると認識していなかったが、数十年前に比べホタルの鑑賞場所が減少しているという声があった。これを機会に、いかにして住民自らが地域の魅力を認識し、ホタルの生息地を守り人を呼び込んでいくかが課題となっている。

### (2) 事業目的

- ・ホタルが生息する環境を活かし、発展させ、「ホタルの里」をつくる。
- ・住民自身に地域の魅力を認識してもらう。
- ・芦野地区の魅力（「ホタルの里」）を外にPRし、移住定住を促す。

### (3) 事業概要

- ・ホタルの里づくり事業（6月23日 18時～ 参加者11名）
  - ①ホタル飼育学習会（講師：なかがわ水遊園 目野先生）
  - ②ホタルえさ（カワニナ）生息地の環境調査
  - ③ホタルの成虫放流箇所飛翔調査・観察会  
峰岸地区、黒川地区
  - ④飼育用ホタル捕獲（ゲンジホタル）
- ・ホタル生息地の環境調査（6月28日 19時40分～ 調査者4名）
- ・ホタル幼虫の産卵、孵化の飼育（6月23日～）



### ◆事業の成果や効果◆

芦野地区の自然環境を守るためにホタル生息地飛翔調査や生息地環境調査などを実施した。更にはホタル幼虫飼育学習会や観察会によりホタル幼虫飼育者の増加を試みた。

芦野地区が豊かな地域資源を活かしたホタルの里づくり事業により、地区住民の郷土愛の醸成に繋がり、観光客が増加することにより地域活性化が図られることから継続した取組みに期待する。



# 平成30年度地域づくり事業実績報告

【平成28年度～3年目】

団体名	伊王野地区地域づくり委員会	代表者	伊藤 弘
事業名	ミツマタ群生地周辺整備事業	事業費	463,800円
		交付金	463,800円

## (1) 地域の現状と課題

伊王野地区は道の駅をはじめ、昔から自然に囲まれた名所旧跡があり歴史と伝統ある地区である。伊王野城山西側には、2月から5月頃にかけて黄色い花を咲かせる「ミツマタ」の群生地があるが、そこに向かう山道は非常に狭く、手入れがされず荒れている。また、伊王野地区を訪れる方のほとんどは車を利用しているが、駐車場もないため、うまく誘客することができていない。今後の課題としては、ミツマタ群生地へ続く道や駐車場を整備し、春の桜や椿、ツツジの花が咲き誇る伊王野城山公園と併せて観光資源としていく必要がある。

## (2) 事業目的

地域住民自らが、ミツマタ群生地の環境や取付道の整備に携わることで地域資源を最大限活用し、地域資源に触れ、地域住民の自然環境の保全意識の醸成、郷土愛の醸成を図る。また、花の開花時期が重なる伊王野城山公園と併せてPRすることで、観光誘客の相乗効果を図り、交流人口の増加をねらう。

## (3) 事業概要

- ① 事業の内容や作業についての打合せなど委員会を開催（2回）
- ② 倒木処理や草刈り、植栽などの環境を整備
- ③ 駐車場の整備（砂利敷）
- ④ 舗装工事や型枠外しなど道路の整備を実施
- ⑤ 砂利敷流失防止枕木敷設による遊歩道の整備



## ◆事業の成果や効果◆

地域住民が、地域資源を活用したミツマタ群生地の環境や取付道の整備に携わることで地域住民の自然環境の保全意識と郷土愛の醸成が図られている。

今後は、花の開花場所として周知の伊王野城山公園にミツマタ群生地を加え、新たな観光資源としてPRすることにより観光誘客の相乗効果が期待でき、交流人口の増加に期待できる。